

新連載
ご当地
ローカル・デモ！！
「脱原発」

第1回
放射能はいらねえ！
仮装！ 変身！
デモンストレーション
inくにたち
文：かみてけいこ

この連載ではローカルな脱原発アクション・デモに焦点を当て、紹介またはレポートを交代で執筆していただきます。

今年の七夕翌日、七月八日に中央線国立駅から南武線谷保駅まで続く大通りに、二〇〇人ほどのにぎやかな一団が車道を歩く。浴衣を着た参加者が「原発のない未来を」と書いた短冊をくくりつけた笹の葉を持って歩き、ま



溝田さんが去年の震災後の五月に、来店客や地域の人たちに配ったというチラシ『二〇一一年六月一日ウンコやシッコをするようにデモをしようヨ!!』には、いきいきとした言葉でデモ参加を呼びかけている。「デモは日常の中での、自然な、当然な『生活・表現行為』だと思うんです。ウンコやシッコをするのと大して変わらないと思います。これまで抱いていた『デモ』のイメージを『大変身』させるようなひとりひとりが、イロイロ工夫して参加して下さいませ。」

この言葉通り、このデモでは思い思いの工夫を凝らして表現をする参加者が多い。太鼓やギターを演奏しながら

た、ロックバンドが「サウンドリヤカー」にアンプを積んで演奏し、歌にのせた脱原発のメッセージを街に響かせた。

◆ 中央線沿線の小さなまち、国立市。クリスマス、節分、エイプリル・フール、七夕と、時どきの季節に合わせ工夫しながら、参加者が楽しめるデモ作



歩く人、手作りプラカードを持参する人、仮装をする人。もちろん普段着のまま歩く人や飛び入り参加もあれば、ペットを連れて参加する人もいる。その雰囲気には、都心のアクションにはない独特のゆるさと、デモを楽しみたという参加者の思いを感じる事ができる。楽しみながらもその中で、しっかりと原発いらないとメッセージを発してもいい。沿道の反応も都心に比べてとても好意的だ。

◆ デモ当日は準備スペースとして店を開放し、おむつ替えや衣装準備などに使用可と毎回告知しているので、デモ当日はメイクや仮装に熱心な人たちが店内にはぎやか。

◆ くにたちデモでは毎回「清志郎」を募集している。原発問題やほかの社会問題も積極的に歌っていたロック・シンガー忌野清志郎のゆかりの地でもある国立ならではの発案で、過去のデモでは清志郎そっくりさんが何度か登場している。ダウンロード可能な清志郎

りをしてきた、くにたちデモンストレーションやろう会のデモは、次の「ハロウィンデモンストレーション」に「ねえ〜」（十月二日）で第五回目を迎える。

◆ このデモの発案者は、国立市富士見台で居酒屋兼フリースペース「かけこみ亭」を経営する溝田幸さんだ。かけこみ亭に来店した地域のお母さんの「地域のママ友にデモに出ているのを見つかるから、参加しづらい……」との言葉を受け、仮装・変装というスタイルを思い立った。また、都心まで子ども連れで行きにくい、車いす生活だから、もう歳だから、と都心の行動に参加しづらい地域のひとたちが参加できるようにと国立でのデモを発案した。以後、店の常連メンバーや地域の老若男女と営業中の店に集まり、デモを企画している。学生である私もそのメンバーに入れてもらい、時間があうときに会議に参加している。

◆ プラカードを持つ参加者も毎回多い。音楽ファンにとっても参加しやすい、このようなご当地アイデアで盛り上げようと皆で目論んでいる。

◆ 声をあげることに抵抗がある地域の人びとが、どうしたら路上に出て表現し、声を出すことができるのか、これまでも運動をしてきた人びとと震災後に、身近な場所と関係の中で少しずつ変化を生み出していききたい。そんなデモを続けていこうと、くにたちデモンストレーションメンバーは次のデモに向けてアイデアを練っています。二二日のハロウィンデモンストレーションでは、キャンディを配りながらおぼけや妖怪が大学通りを歩く予定。さあ、ちいさなまちから声を上げていこう!!



（かみてけいこ）